

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274000254		
法人名	特定非営利活動法人 あい愛		
事業所名	こころあいホーム		
所在地	千葉県富里市御料1139-32		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様が、ゆったりとご自分のペースで過ごせるような雰囲気づくり。
・ひとり暮らしを不安に思う利用者様同士が安心して暮らせるような関係づくり。
・利用者様、ご家族様、地域の皆様の架け橋として支援している。
・今までの防災委員・感染症対策委員とは別に新たに防犯対策委員を加え防犯の観点からもご利用者様が安心して暮らしていただけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根ざし、住み良い街づくりで地域の方が幸せになることを目標とし、高齢者及びサービスの必要な方に寄り添う」との法人の信条(Our Credo)に基づき運営されている。重度化した利用者が多く、職員の負担が増えているが、看護師でもあるホーム長のリーダーシップで、料理の腕前を披露する方、食器拭き・洗濯物たたみ・ホーム菜園での野菜の収穫する方など様々に、「認知症になってもできること」を大切に支援に取り組んでいる。イベントや行事も多く、それらに合わせてほぼ毎月家族会を開催しており、アンケートには「ホームに行くのが楽しみ、大家族のような雰囲気」といったコメントも寄せられている。また、法人主催の認知症メモリーウォーク富里や音楽祭などには多くの住民も参加して頂くとともに、社協主催の子育て支援行事にホームとして参加するなど、家族や地域と連携した活動を行っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を共有し、職員一人ひとりが危機意識を高め合いながらご利用者様に寄り添うために些細な変化に気が付けるよう日々の支援の中で気が付いたことや感じたことを声に出し、理念に沿った過不足のない支援を実践している。	法人として私たちの信条及び3つの理念があり、「できることは自分で・できないことはみんなで・支えあい、助け合い励まし合い」を合言葉に支援に努めている。利用者の自立や意欲を妨げないように、過度な支援にならぬように会議や申し送りで共有し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様、ボランティアの方と共に音楽会、ホーム内パーティ、防災訓練等、年間行事を通して協力を得ている。今年度は新たに防犯対策委員を加え防犯について警察からの協力を得ている。	町内会に加入、ホーム主催の年間行事やパーティ、防災訓練、AED講習会には多数の住民の参加があった。法人あい愛主催の秋祭り、クリスマス会、音楽発表会などにも参加頂くなどして、良好な関係ができています。社協主催の子育てキラキラ行事に初めて参加し世代間交流が出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報や実践を通じて認知症の人の理解や支援の方法を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度開催しており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また広報を通じ事業所の情報を発信している。	市高齢者福祉課、民生委員、地域住民、学識経験者、家族、利用者の参加を得て年6回定期開催した。ホームより運営状況・課題の報告、市からの情報提供を受け、防災訓練参加家族の意見などを聞き、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の各担当者の方々にその都度連絡・報告・相談をしている。また研修案内や台風・災害時の情報共有、報告も行っており、運営推進会議をはじめ、ホームのイベントにもご参加いただいている。	市高齢者福祉課や社会福祉課とは随時連携を取っており、今回も市の公募に呼応して小規模多機能事業所を開設する等、信頼関係を築いている。地域包括支援センターからも各種の相談を受け協力し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し、ミーティング等で情報を共有している。	県の身体拘束廃止研修を受講した職員が、伝達研修を行い職員間で理解を深めている。離床センサー付ベッドを4台導入する等して、入居者の安全確保に努めている。家族の要望もあり、やむなくベットの設置の利用者には、同意書を交わして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が研修等で学ぶ機会を持ち、常に虐待が見過ごされることがないように職員間で連携を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族様の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族会を開き、各担当者が利用者様の日々のご様子を報告し意見、要望など伺い、ご家族様の理解・ご協力を得るとともに、連携を密にしている。	アンケートには「ホームに行くのが楽しみ・大家族みたい」などの意見もあるように、ホーム運営には家族の積極的な協力があり、親密な連携ができています。家族会を毎月開催する等、ホームの努力によるものと高く評価したい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月20日に職員ミーティングを全員出席で開催し、意見や要望など話し合い、運営に反映させている。	毎月定例の職員ミーティングは全員参加で開催し、職員の意見を積極的に運営に反映させている。年1回個人面接を行い業務や勤務についての要望なども話し合い、必要に応じて年6回開催の法人事業所会議で報告・検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員一人ひとりの日々の業務・支援の中から課題を見つけ、理念の下にご利用者に寄り添い、過不足のない支援をするために必要な知識、技術、意識を持てるようトレーニングしている。どんなことでも気が付いた職員が気が付かない職員へ声を出し助言することで職員同士でステップアップできるよう努めている。様々な資格取得の支援もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の機会を積極的に確保し、活動を通じて質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所もない利用者様の帰宅願望や不安に耳を傾けながら、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安、要望等に耳を傾けながら、安心して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、必要としている支援を第一に考え、他のサービスも含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も利用者様も区別なく家族の一員としてとらえ、物事の善し悪しをはっきりとし、自分の考えや意見をはっきりと伝えることができている。できる事は得意とする人が中心となり、過不足のない支援を通じ関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様が自由に寛げる場を築いている。イベント参加のお誘いは勿論、参加して頂ける範囲で共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様による食事介助・入浴介助・毎月の紙芝居・体操等を通じ、馴染みの関係が途切れぬようご家族様やご友人の方々が安心していつでも立ち寄れるよう支援している。	毎日のように家族は来訪し、介護の支援をしてくれる。中には馴染みの店でコーヒーを飲み、行きつけのスーパーへ買い物、ゴミ出しに行くクリーンセンター職員と顔見知りになり世間話をする方もいる。友人をホーム行事に誘い、一緒に楽しんでもらうなど従来の関係の維持を支援している。	アンケートには「職員は大変良くしてくださるが、名前が覚えられない」「職員紹介の掲示がほしい」などの希望も上がっているので、検討願いたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。利用者様一人ひとりがご自分のできる事や支援を通じて役割を持つことで支え合い、助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等にお誘いしたり、サービス利用終了後もご自分の想いを話に来られるご家族様の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での思いや暮らし方の希望、意向を把握し、利用者様本位に検討している。毎月のミーティングで各担当者からの報告をもとに職員一人ひとりの気づき・考えを通じ利用者様本位のサービスを検討している。	日々の利用者との話し合いで希望や意向を聞き、生活歴や各職員の意見も参考にしている。性格や好みも理解して、日々の支援に活かしている。表現が困難な方には寄り添う気持ちで、表情や仕草から思いを汲み取り、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様との会話の中から思いや望みの把握に努めている。ご利用者様の各担当者をはじめ、職員一人ひとりが日頃の生活の中でご利用者様の思いや希望の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を連絡ノートや小ミーティング等を利用し職員間で情報共有・連携をとり、暮らしの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中でより良く暮らしていただくために、利用者様、ご家族様、必要な関係者とその都度話し合い、意見やアイデアを反映し、小さな変化も見逃さず、一人ひとりに過不足のない支援を計画し支援している。	毎月職員ミーティングで、各利用者担当職員からの報告や、家族、利用者の意向を取り入れ介護計画書を作成している。モニタリングは月1回行い目的に向けて見直しがされ、家族にも報告する。状況の変化がある場合は、都度話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や情報を職員間でより早く共有できるように、申し送りや個人日誌、ケース記録は勿論、排泄チェック表等の一早く必ず目を通すところに記録し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要な支援に日々柔軟に対応し、一人ひとりのサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほぼ毎日、スーパーへ買い出しに行き、食材選び、支払等も行っている。週二回クリーンセンターへのゴミ出しにも積極的に行かれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様及び、ご家族様の希望を大切に、適切な医療を受けられるよう支援している。	近所の内科クリニックをかかりつけ医としているが、きめ細かな対応に家族の評判は良い。日常は、看護師である管理者がバイタルチェックをしている。専門医への受診は、家族同行が基本だが、場合によっては家族と相談し看護師が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気づいたこと、気になったこと、些細な変化や利用者様の希望等、看護師に伝え、利用者様一人ひとりが適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院及び主治医との情報交換や相談を密にし、連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度主治医と連携を密に取り、悔いのない最後を迎えられるようご利用者様、ご家族様と話し合い、事業所のできる事を十分に説明し、看取り介護計画書に基づき関係者と共にチームで取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期の対応について利用者、家族の意向を確認している。ターミナルケアが必要と思われる時期にかかりつけ医が説明し、書面にて同意の上、家族にとって悔いのない看取りとなるように努めている。28年度は2人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、常に課題を見つけ、実践力を身につけている。またヒヤリハット・ミーティング等を利用し考えうる緊急時を想定し対応の検討・見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が危機意識を持ち、毎月1回、防災訓練を行い利用者様が安全に避難できる方法を身につけている。また、常に課題を見つけ改善し取り組んでいる。地域の皆様、ご家族様にもご参加いただき、協力体制ができている。今年度から入浴時の災害も想定し入浴時用避難服を用意した。	同一場所の系列デイサービスとホーム合同で消防署立会いの年2回火災訓練を実施している。火元を想定した避難訓練で改善点、課題を見つけ訓練の課題について助言をもらっている。訓練の後に、AEDの講習会も実施し、家族、地域の住民にも参加頂き、協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	利用者の呼び名は、苗字としているが、長年いる方は、本人希望の呼び方としている。排泄介助、入浴介助の時は、タオルで覆うなどして、プライバシー保護に配慮している。失禁等の場合は、失敗を意識させず、明るい気持ちになるような言葉かけで支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様が想いや希望を自己決定できるよう働きかけ、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を優先し、利用者様のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカット、毛染め、顔剃り、髭剃り、お化粧、マニキュア等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に買い物に行き、食材選びや献立を考えていただいている。また調理にも積極的に参加されご自分の得意料理をふるまわれている。後片付けも共に会話をしながら楽しんでいる。	職員は利用者の希望を取り入れた献立を考え、買い物も一緒に行っている。職員と語らいながら調理、配膳、後片付けなどを手伝うが、自慢の腕前をふるう利用者もいる。ホーム菜園で収穫した野菜や果実を使つての調理や食欲が湧く様な盛り付けなど工夫などしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの状態、好みに合わせ食事量、水分量、形態等に、その都度柔軟に対応している。寒天やゼラチンを使い彩り、盛り付けにも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、すすぎ等ができない利用者様には吸引器やスポンジブラシ等を使い、常に清潔に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツを使用し、利用者様一人ひとりの排泄パターンに合わせ、二人介助やクッションを使用しトイレでの排泄支援を行っている。	日中は布パンツを使用し、排泄チェック表をもとに個々の排泄パターンに合わせトイレに誘導している。夜間は安眠のために排泄自立の方には声掛けをせず見守り、歩けない方はオムツやパッドを使用し個別対応で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、乳製品、水分等を多く摂っていただけるよう調理法及び、味、形状に変化をつけている。排便困難な利用者様には毎食時に寒天ドリンクを召し上がっていただき自然排便及び便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や気分及び、希望に沿った入浴支援を行って楽しんでいただいている。一日を通しいつでも入浴できる。(午前・午後・寝る前等)	利用者の希望に沿って、毎日、好きな時間に入浴できる。体を洗う時は、固形石鹸を使用して、皮膚の乾燥に気を配っている。また、入浴中の災害発生に備えて、すぐに着用できる避難用の服を脱衣所に用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活習慣や希望に合わせて休憩していただいている。日中はリビングの座敷やご自分の居室でご利用者様のペースで休息している。温度、湿度の調節を細目に行い、心地良く安眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に対して疑問や変更があった場合、その都度説明を行い、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。また主治医との連携を密にし服薬についても過不足のない支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりが力を発揮できるよう日々の生活の中で役割や得意なことを取り入れ、嗜好品、楽しみごと、歌や家事を通じ気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様一人ひとりが、その日の希望に沿って、いつでも戸外に出かけられる。いちご狩り、花見、外食、音楽会など利用者様、ご家族様、地域の方々と一緒に外出できるよう支援している。	ホームの犬を連れて近くの神社まで、散歩にいったり、リフト車で買い物に出掛けている。年中行事は、家族を誘ってのいちご狩り、外食、花見、初詣、音楽会などがある。認知症理解の啓発活動を目的とした11月開催のメモリーウォークに地域の方々と一緒に参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持している。利用者様が希望する場所に行き、望まれるものをご自分で支払い、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出されている。贈り物のお礼等、利用者様の希望に応じて、電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。ご家族様から電話があった際にはご利用者様にかわり談話を楽しませている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう環境整備を細目に行っている。季節の草花や季節に合った掲示物を利用者様と共に作り、飾っている。	温度・湿度管理、空間除菌をしたり、臭い対策も配慮している。玄関や廊下には、利用者で作った季節感のある装飾、作品、思い出の写真が飾ってある。居間には、分割できるダイニングテーブルがあり、利用者が居心地よく過ごせるよう配置や組み合わせを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、台所、座敷、デッキ、トイレ等で共同生活を感じていただきながら、ご自分の居室で穏やかに過ごされたり、気の合った利用者様同士で好きな場所で自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、ご家族様と相談しながら、居心地良く過ごしていただけるよう努めている。利用者様一人ひとりに合わせ、ベッドや敷布団を使用していただいている。	清掃は利用者と一緒にを行い、室内を整理整頓する時は、安全対策として利用者に一声かけて混乱しないように配慮している。ベッドや車椅子での楽な姿勢を保持するための利用者に合わせた職員手作りの体位保持用クッションを提供し喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの力を活かして、安全に、できるだけ自立した生活が送れるよう過不足のない支援している。		